岩沼の集落

岩沼市の沿岸部には，「相野釜」「藤曽根」「二野倉」「長谷釜」「蒲崎」「新浜」の６つの地区があり，東日本大震災前は515世帯1784人が暮らしていました。東日本大震災の大津波により，人々は沿岸から内陸へ約3km離れた場所に防災集団移転し，「玉浦西」という新しいまちに移り住みました。

「千年希望の丘」は，太平洋沿岸に沿うように掘削された日本最長の運河「貞山堀（ていざんぼり）」の東側に築造されており，被災した6つの集落跡地を活用し整備されています。もともとの地名は，千年希望の丘の公園名として残されています。また，園内には，家の基礎や蔵，生活道路など震災遺構が残され，人々の営みを伝えています。

相野釜（あいのかま）

被災前　人口４１７人，１３６世帯

製塩場として塩をつくる釜場があったことが地名の由来とされ，「相野釜メロン」など農業主体の地区であった。

藤曽根（ふじそね）

被災前　人口８０人，２０世帯

開墾の努力により高地としたことが地名の由来とされ，弘法大師の修行の地と言い伝えられる地区であった。

二野倉（にのくら）

被災前　人口３５９人，１０１世帯

坂上田村麻呂が大蟹を穴の倉に埋めた伝説が地名の由来とされ，工場や倉庫が建つ工業団地と共にある地区であった。

長谷釜（はせがま）

被災前　人口２７４人，８２世帯

製塩場として塩をつくる釜場があったことが地名の由来とされ，神明社の大銀杏に見守られてきた地区であった。

蒲崎（かばさき）

被災前　人口４８７人，１３０世帯

古き時代は港町。蒲が生い茂っていたことが地名の由来とされ，仙台藩が京に献上する鮭の漁を行った地区であった。

新浜（しんばま）

被災前　人口１６７人，４６世帯

納屋の地区が新たに小村落となったことが地名の由来とされ，阿武隈川の河口の地区であった。

記憶のデジタル・アーカイブ

世代を超えた「共通の体験・記憶」は地域の貴重な資産です。そして体験や記憶は「場」と関連付けて想起されます。しかし，共通の体験や共通の記憶を育んできた岩沼の「場」や「空間」は東日本大震災によって失われてしまいました。そこで筑波大学 村上暁信研究室では被災者へのヒアリングを通じて津波被災前の集落景観の再現に取り組んできました。その成果をもとに，スマートフォンで360度VRを体験できるシステムを構築しました。本システムを通じて集落の住民だけでなく，初めて訪れる人々もかつての岩沼の集落を体験することができます。

ウォークスルービデオ上映施設

千年希望の丘交流センター

開館時間：9:00～17:00
（毎週火曜日・年末年始休館）

連絡先：〒989-2421　岩沼市下野郷字浜177番地

TEL・FAX：0223-23-8577

ウォークスルービデオで集落内の移動を仮想体験することができます。（千年希望の丘交流センターにて常時展示）

諸注意

- 道が狭かったり，大型トラックが走る道路等があったりしますので，画像閲覧時には周囲にご注意ください。
- 周囲に居住されている方もおられますので，画像閲覧時にはご配慮ください。

発行元・問い合わせ先

岩沼市政策部まちづくり政策課　**TEL：0223-23-0199**

岩沼VR

岩沼集落景観VR

- 失われた景観の再現 -

QRコードを読み込んでアクセスするだけで360度のVRを体験

現地設置のＱＲコード　もしくは　パンフレットのＱＲコード

360度VR

画面左下のジャイロボタンを押してスイッチON！

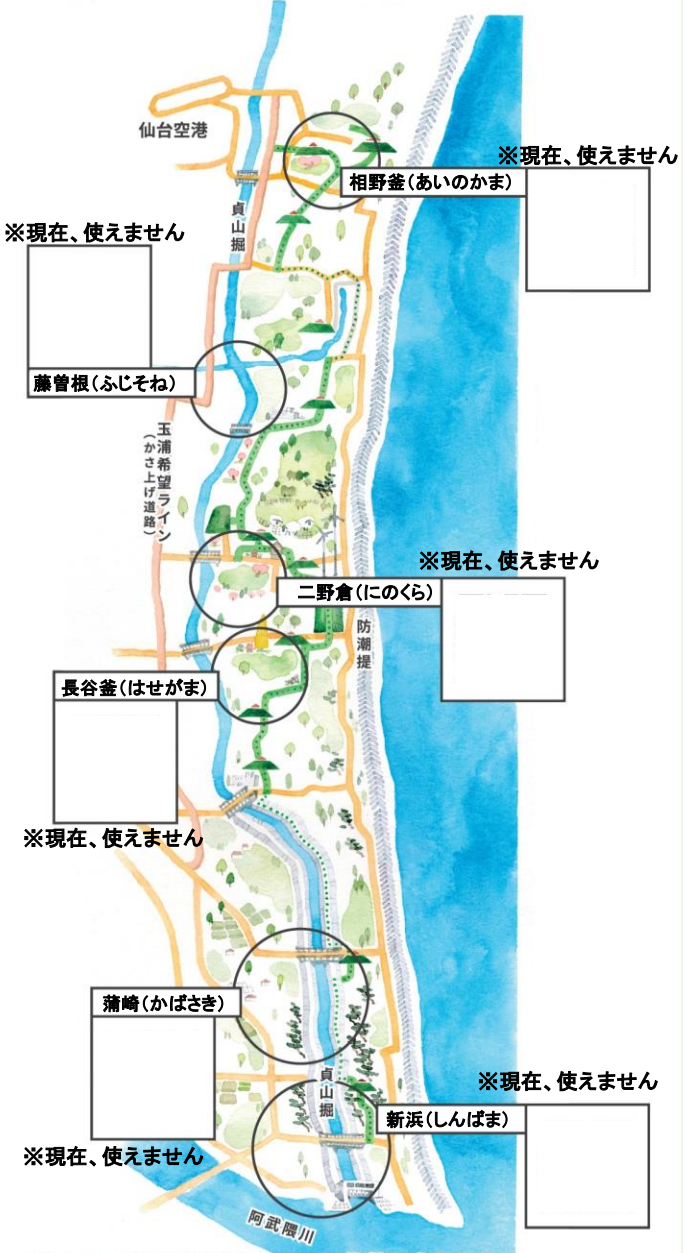
↓

その状態で360度好きな方向を向いてみよう！
かつての姿が画面の中に再現される！

相野釜（あいのかま）

藤曽根（ふじそね）

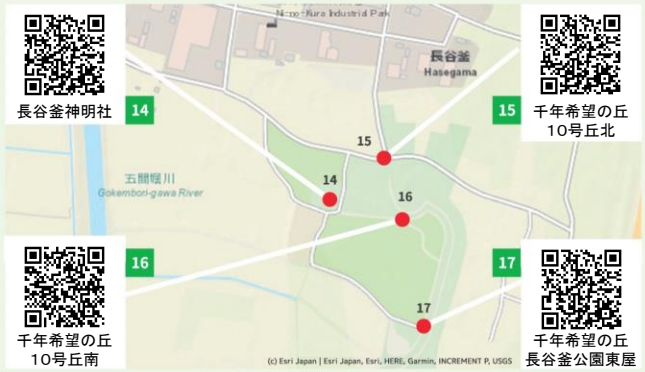
二野倉（にのくら）



QRコードを読み込んで６つの集落へ向かおう！
読み込むだけで現在地からＶＲ再現場所へ簡単ナビゲート！

岩沼6つの集落

※現在、ご利用になることができません。



長谷釜（はせがま）

蒲崎（かばさき）

新浜（しんばま）